

# 山梨県におけるこども・若者意見反映サポート事業

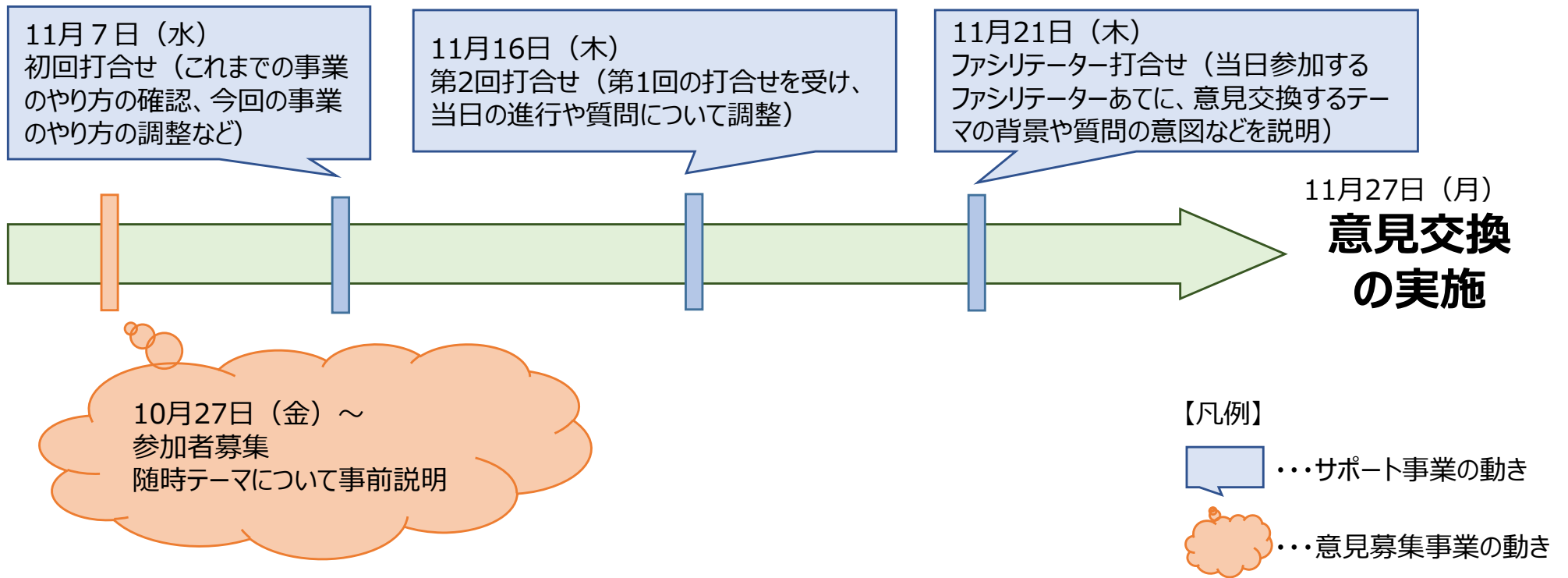
「こども・若者意見反映サポート事業」の第一弾として、令和5年11月27日(月)に山梨県へファシリテーターとこども家庭庁職員を派遣しました。

## 実施概要

- ◆ 事業名：山梨県こども若者いけんぱらす
- ◆ 目的：今後策定する「山梨県こども計画（仮称）」への反映
- ◆ 会場：県立愛宕山こどもの国 工作室
- ◆ 当日参加者：25人（小学生～大学生）
- ◆ 派遣人数：ファシリテーター 4人  
こども家庭庁職員 2人
- ◆ 担当部局：山梨県子育て支援局子育て政策課子育て支援担当
- ◆ 質問した内容：幸福な生活を送るために必要なことについて
  - ・あなたやまわりの人たちが幸せに生きていくために必要な「もの」や「こと」は何だと思うか？
  - ・あなたやまわりの人たちが幸せに生きていくために必要な「もの」や「こと」で、今の生活に足りていない、または将来の生活を想像した時に不安がある「もの」や「こと」はあるか？
- ◆ 意見聴取の様子のZoom配信及びこども家庭庁職員によるポイント解説・質疑応答を行い、県内6自治体が参加した。



# 山梨県事業とサポート事業の取組の流れ



## 意見交換後の取組

### 意見を類型整理

幸せに暮らすために必要なことは？  
生活環境  
自由・余裕  
安心・安全  
自己実現  
人間関係  
存在意義・承認

### 参加者に確認

整理した意見について、認識の誤りや、取り下げ希望の有無などを参加者に確認

### 調査項目に反映

類型整理した項目を、こども計画で実現していくべき要素と捉え、アンケート調査により、各項目の現在の実現度を把握

### 調査結果を計画に反映（予定）

アンケート調査結果をこども計画における成果指標と設定

### 結果のフィードバック（予定）

意見交換参加者に意見をどのように施策に反映したか報告

# 今回の取組の工夫点など

## ○工夫した点

	ポイント	留意点など
意見聴取前	<ul style="list-style-type: none"><li>①参加者に対しては、テーマについて解説する資料を配布</li><li>②日時は放課後となる平日夕方に設定</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>①資料にはふりがなをふる</li><li>②時期が、会場周辺の学校の試験期間と近く、参加者を集めにくかった</li></ul>
意見聴取当日	<ul style="list-style-type: none"><li>①会場は県のこども向け施設の一室を用意</li><li>②参加者に年齢の幅があったので、班は年代別に分けた</li><li>③意見はICレコーダーで録音＋付箋・模造紙を用意</li><li>④参加者には飲み物を用意</li><li>⑤小学生含め、保護者は会場に入らないこととする</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>①こどもたちにとって親しみやすい雰囲気となった</li><li>③ファシリテーターの他、もう一人板書担当が必要</li><li>⑤参加する小学生と普段から接している職員は会場内で待機。（話し合いに入ることはない）</li></ul>

# 参加者・関係者の声

## 参加者（こども・若者）の声

楽しかった

ファシリテーターがいることで  
意見が深められた

こうした機会が  
増えてほしい

## 自治体担当者の声

### 実施して感じたこと

- ・幅広い年代を対象として呼びかける文書の作成の難しさを感じた
- ・年代によって集まりにくい時間や時期、意見交換を行う時間に対する感覚が違う
- ・参集型の意見聴取は、ファシリテーターや運営補助など必要になる人が多い
- ・小学生からの意見聴取についてはファシリテーターの方の上手な対応が見られた
- ・こどもや若者の口から事務担当者が直接意見を聞くことができる点は効果が高い
- ・参集型だと、参加者にとっても、参加を申し込むことに対する心理的ハードルがある
- ・小学生からの意見聴取についてはファシリテーターの方の上手な対応が見られた
- ・特別なことではなく、継続していくためには、無理なく意見聴取できる仕組みが必要と感じた

### 意見聴取のアイデア

- ・学校や放課後児童クラブなど、こどもが集まっているところに直接訪問して意見を聴く
  - ・ウェブアンケートをやったり、SNSで発信されている意見を集めに行く
- など多様な方法により、意見を聴きたいテーマがあったとき、もう少し気軽に意見を問いかけたり、こどもの意見が聴けるような仕組みを用意する必要がある
- また、普段からこどもや若者と係わる者を通して、こどもや若者の意見が聴取され、施策に反映されていく仕組みができると良いと感じた